教科	科目	学年	単位数
中学社会	歴史	2年	4
使用教科書		副教材	
中学歴史 日本と世界（山川出版社）		つながる歴史[静岡県版]（浜島書店）	

1. 学習到達目標

社会的事象の歴史の見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

(1) 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技術を身に付けるようにする。

(2) 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

(3) 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする事の大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。

(4) 「知識・技能の習得」・「思考力・判断力・表現力」・「自ら積極的に学ぶ力」の3本柱を重要視する。年表や写真、史料などさまざまな資料を用いて自らの力で調べて考え、多角的・多面的に考察して表現する活動をおこなう。レポート作成や発表など、本高校探究系に進学するために必要な能力を身に付ける。

2. 評価

(1) 知識・技能

我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。

(2) 思考・判断・表現

歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

歴史に関わる諸事象について、国家および社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

3. 学習内容（表参照）

4. その他（科目の特徴や学習の注意点など）

- ・歴史上の人物だけでなく、社会・経済の変化にも注意が必要である。また必要に応じて学習内容を発展・拡充し取り扱う。
- ・公民分野との接続を考慮し、「第7章 現代の日本と世界」は中学3年1学期におこなう。

	月	単元・試験	授業内容	その他 (到達目標・学習のポイントなど)
一 学 期	4	第1章 歴史との対話 1節 私たちと歴史	<ul style="list-style-type: none"> 年代の表し方 時代区分の表し方 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史上の人物を活躍した時代、身分や地位、業績に分類し、時代区分と対応出来る。
	5	第2章 古代までの日本 1節 世界の諸文明	<ul style="list-style-type: none"> 人類の誕生と進化 古代文明の始まり・地中海文明の発展 中国文明と東アジア・宗教のおこり 	<ul style="list-style-type: none"> 農耕や牧畜を基礎に築いた諸文明には、生産技術の発達、文字の使用、国家のおこりと発展等共通する特徴があることを理解する。 三大宗教の発祥地が、インドや西アジアなどの古代文明地域と重なることを表現出来る。
		中間試験		
		2節 日本文化のあけぼの	<ul style="list-style-type: none"> 氷河時代の終わりと縄文文化の誕生 稲作の広まりと弥生文化 古墳とヤマト政権 	<ul style="list-style-type: none"> ヤマト政権による国内の統一と大陸からの移住者が我が国に果たした役割を考察する。
	6	3節 律令国家の形成	<ul style="list-style-type: none"> 聖徳太子の政治改革と飛鳥文化 律令国家への道 	<ul style="list-style-type: none"> 古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現すること。
		4節 貴族政治と国風文化 探究学習 古代までの日本	<ul style="list-style-type: none"> 律令国家の仕組みと人々の暮らし 平城京と天平文化・平安京と弘仁貞観文化 東アジアと国風文化 世界各地の古代文明、三大宗教、農耕の開始による日本列島の人々の変化、中央集権体制の確立、平安時代の社会の変化 	<ul style="list-style-type: none"> 天皇や貴族の政治の展開を、平安京における貴族による摂関政治を通して理解する。 仮名文字に代表される国風化を例に考える。 古代から平安時代までの変化を振り返り、考察し、表現する。
		第3章 中世の日本 1節 中世社会の成立	<ul style="list-style-type: none"> 荘園の成立と武士の登場 院政と武士の成長 鎌倉幕府の成立と執権政治 武士の日常・民衆の生活・鎌倉時代の文化 	<ul style="list-style-type: none"> 中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。
		期末試験 2節 武家社会の成長	<ul style="list-style-type: none"> モンゴルの襲来と鎌倉幕府への失望 南北朝の動乱と室町幕府の成立 東アジアと日本の国際関係 琉球、アイヌ民族の歴史と文化 	<ul style="list-style-type: none"> 元寇、日明貿易、琉球の国際的な役割と東アジア世界との密接なかわりや、それが国内に及ぼした影響についてまとめる。
8		<ul style="list-style-type: none"> 産業、流通の発達と都市、農村の変化 応仁の乱と戦国大名 室町時代の文化 	<ul style="list-style-type: none"> 武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化、戦乱の動乱についての関心を高め中世の特色を理解する。 	
二 学 期	9	第4章 近世の日本 1節 一体化へ向かう世界 2節 近世社会の成立	<ul style="list-style-type: none"> ルネサンスと宗教改革 大航海時代とヨーロッパの海外進出 ヨーロッパ人との出会い 信長、秀吉の全国統一と政策 桃山文化 	<ul style="list-style-type: none"> ポルトガルやスペインによる新航路の開拓や宗教改革によるキリスト教世界の動きに伴って、鉄砲やキリスト教が伝来して南蛮貿易が盛んになったことや信長・秀吉の政策により中世までとは異なる社会が生まれていったことを考察する。 近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。
	10	3節 幕藩体制の確立 中間試験	<ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府の全国支配 江戸時代の社会の仕組み 江戸時代初期の外交と貿易 江戸時代の対外関係 	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代の政治の特色について、中世の武家政治との違いに着目し考察する。 江戸幕府の成立と大名統制について幕府が大名を統制し、領内の政治は大名に責任を負わせたことについて理解する。

一 学 期	11	<p>4 節 幕藩体制の展開</p> <p>5 節 幕藩体制の動揺</p> <p>第 5 章 近代の日本と国際関係</p> <p>1 節 欧米諸国の近代化と 日本への接近</p> <p>2 節 開国と幕末の動乱</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・産業の発達・交通、流通の発達と三都 ・幕府政治の安定と元禄文化 ・貨幣経済の発展と享保の改革 ・田沼時代と社会の変化 ・寛政の改革と対外的な危機 ・新しい学問と化政文化 ・内憂外患と天保の改革 	<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産業や手工業、商業の発達と交通網の整備、大阪・京都では町人の担い手する文化が形成されたことを理解する。 ・貨幣経済の農村への広がりや自然災害により近世社会が動揺について考察する。
	12	<p>期末試験</p> <p>3 節 立憲国家への道</p> <p>4 節 日清・日露戦争とアジア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民革命の時代 ・産業革命と社会の変化 ・アメリカの発展とロシアの東方開発 ・欧州列強のアジア侵略 ・開国と条約締結 ・貿易の開始と攘夷運動 ・江戸幕府の滅亡 	<ul style="list-style-type: none"> ・資本主義社会の成立によって労働問題・社会問題が生まれた理由を考察する。 ・産業革命の進展に伴い欧米諸国がアジアに進出した背景について調べる。
三 学 期	1	<p>5 節 近代日本の産業と文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の産業革命と経済の発展 ・都市と農村の変化 ・明治の文化と教育 	
	2	<p>第 6 章 二つの世界大戦と日本</p> <p>1 節 第一次世界大戦と日本</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦と国際関係 ・アジアの民族運動 ・大正デモクラシーと政党内閣の成立 ・社会運動の高まりと普通選挙法の制定 ・大衆文化の発展とその背景 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦中とロシア革命後日本が起こした軍事行動について考察する。
	3	<p>学年末試験</p> <p>2 節 国際協調の崩壊</p> <p>3 節 第二次世界大戦と日本</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌とその対応 ・ファシズムの台頭 ・昭和恐慌と政党政治への反発 ・軍部の台頭 ・満州事変と日本の孤立 ・日中戦争と国家総動員法 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌に対する各国の対策と対立の深刻化及び我が国の経済の混乱と社会不安の広がりから政党政治が行き詰まりをみせ軍部が台頭してきたことについて理解する。 ・日本の政党政治がどのように定着し、行き詰っていったのか。なぜ、日本が戦争への道を突き進むことになったのか、原因や理由を多面的・多角的に考察する。